

私のおすすめ この1冊！

写真でよくわかる

正確なシャープニング 安全なスケーラー操作 —教えて！ 先輩のチエとワザ！—

福池久恵・鈴木秀典 著

A4判・96頁・定価（本体3,700円＋税）

2013年9月17日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

辻 光弘

（島根県松江市／辻歯科医院）

「まえがき」にも書かれているように、本書は、先輩がいない、あるいはその先輩自身が苦手意識を持っているという歯科衛生士を念頭に、身近にいて指導してくれる指導者代わりになるような本を目指して出版されたものである。

特に、「歯科衛生士の大切な道具をきちんと整えることと、安全で確実なスケーリング・ルートプレーニングを行うための基本操作」に主眼を置き、文章だけでは伝わりにくい内容を豊富な写真を使って解説しており、忙しい合間に読んでも理解しやすいように工夫されている。また、本書は初心者レベルを対象とした、いわゆる「入門書」とは一線を画し、著者が後輩歯科衛生士たちに普段教えているポイントをセレクトして盛り込んであり、“かゆいところに手が届く”ような構成となっている。

本書はシャープニングのパートとスケーリング・ルートプレーニングのパートに分かれている。

シャープニングのパートでは、基本的な事項はもちろん、ストーンの持ち方、動かし方、姿勢、手順と詳細な写真を用いて懇切丁寧に説明しており、写真の通り真似してやっていると、うまく研げるようになっていく。また、偏光顕微鏡を用いて、

新品のスケーラー、新品を研いだスケーラー、使い込んだスケーラーの刃先の違いを示しているのも興味深い。スケーラーを研ぐことがいかに重要であるかがわかるのと同時に、紹介されている手法を用いると新品のスケーラーさえも凌駕する刃先の鋭さとなることがよくわかる。

スケーリング・ルートプレーニングにおいては、シャープニングが何よりも大事であり、その成果を左右する。切れないスケーラーでは過剰な力がかかり、根面や歯肉を傷つけてしまうおそれもある。スケーリング・ルートプレーニング関連書籍はこれまでたくさん出版されているが、本書ほどシャープニングに頁数を割いているものはなかなかみかけない。

スケーリング・ルートプレーニングのパートでは、きちんとシャープニングされたスケーラーを用いた基本操作を、歯列模型とモデルを使って部位別に詳細に解説している。特筆すべき点は、部位の拡大図と、実際の術者の視点の写真、ポジショニングが1頁にまとめてあり、読者が視覚的にイメージしやすいように工夫されていることである。模型を片手に写真の通りに行ってみると、うまくできるのではないだろうか。

シャープニングやスケーリングの



技術は、一朝一夕にしてマスターできるものではなく、繰り返し練習することで身についていくものである。現在、歯科衛生士向けの書籍が多数出版され、当然、著者により手法は少しずつ異なっている。本書も“今まで学校で習ってきたものとは違う”内容も含まれてはいるが、長年の実績と臨床経験から生み出された手法であり、目的はきちんとシャープニングされた道具で根面の清掃を行うことである。特に初心者の方は、本書はもとより、様々な書籍にふれ、これらの方法が1つではないことをしっかり理解したうえで、本書に記載されている多くのヒントを自分のものにしていただければと思う。

歯科界を取り巻く環境がますます厳しくなる中、歯科医療、ことに歯周治療における歯科衛生士の役割は次第に大きくなりつつある。本文中でも述べられているように、歯周治療の成否はスケーリング・ルートプレーニングに代表される歯周基本治療にあり、その歯周基本治療は歯科衛生士の手腕にかかっているといっても過言ではない。歯周治療をいろいろな面から支える歯科衛生士を育成していくことが、これからの歯科界を発展させていく重要な鍵の1つとなるのではないだろうか。